

表29-2. 主な移動理由（健康に関連する理由について）

	転入群	転出群	市内転居群	
65～74歳	(自分の身体状況のため)			
	病院に入院するため	2	2	1
		2%	1%	1%
	老人ホーム等に 入所するため	1	10	2
		1%	5%	2%
	身体が弱ったから	9	5	2
		8%	3%	2%
	(配偶者の身体状況のため)			
	病院に入院するため	0	0	0
		0%	0%	0%
	老人ホーム等に 入所するため	0	0	0
		0%	0%	0%
	身体が弱ったから	1	2	6
		1%	1%	4%
	(生活環境のため)			
医療機関の利用が 便利だから	2	4	0	
	2%	2%	0%	
福祉サービスを 受けるため	1	0	1	
	1%	0%	1%	
75歳～	(自分の身体状況のため)			
	病院に入院するため	0	7	0
		0%	4%	0%
	老人ホーム等に 入所するため	4	47	3
		4%	28%	4%
	身体が弱ったから	24	14	2
		23%	8%	3%
	(配偶者の身体状況のため)			
	病院に入院するため	0	2	2
		0%	1%	3%
	老人ホーム等に 入所するため	0	0	1
		0%	0%	1%
	身体が弱ったから	2	3	0
		2%	2%	0%
	(生活環境のため)			
医療機関の利用が 便利だから	4	0	1	
	4%	0%	1%	
福祉サービスを 受けるため	1	1	0	
	1%	1%	0%	

表30-1. 健康に関連する移動理由（複数回答）

	転入群	転出群	市内転居群	
対象者全体	(自分の身体状況のため)			
病院に入院するため	5 2%	19 4%	7 2%	
老人ホーム等に 入所するため	12 4%	67 14%	6 2%	**
身体が弱ったから	72 25%	61 13%	29 10%	**
	(配偶者の身体状況のため)			
病院に入院するため	0 0%	5 1%	4 1%	
老人ホーム等に 入所するため	0 0%	1 0%	1 0%	
身体が弱ったから	17 6%	26 6%	15 5%	
	(生活環境のため)			
医療機関の利用が 便利だから	34 12%	42 9%	14 5%	**
福祉サービスを 受けるため	9 3%	20 4%	7 2%	

(** p<0.01)

表30-2. 健康に関連する移動理由（複数回答）

	転入群	転出群	市内転居群		
男性	(自分の身体状況のため)				
	病院に入院するため	2	7	3	
		2%	4%	2%	
	老人ホーム等に 入所するため	3	14	1	**
		3%	8%	1%	
	身体が弱ったから	19	10	8	**
		22%	6%	6%	
	(配偶者の身体状況のため)				
	病院に入院するため	0	3	1	
		0%	2%	1%	
	老人ホーム等に 入所するため	0	0	0	
		0%	0%	0%	
	身体が弱ったから	11	17	7	
		13%	10%	6%	
	(生活環境のため)				
医療機関の利用が 便利だから	11	13	8		
	13%	8%	6%		
福祉サービスを 受けるため	1	1	3		
	1%	1%	2%		
女性	(自分の身体状況のため)				
	病院に入院するため	3	12	4	
		2%	4%	2%	
	老人ホーム等に 入所するため	9	55	5	**
		5%	18%	3%	
	身体が弱ったから	53	51	21	**
		27%	17%	12%	
	(配偶者の身体状況のため)				
	病院に入院するため	0	2	3	
		0%	1%	2%	
	老人ホーム等に 入所するため	0	1	1	
		0%	0%	1%	
	身体が弱ったから	6	9	8	
		3%	3%	5%	
	(生活環境のため)				
医療機関の利用が 便利だから	23	29	6	*	
	12%	10%	3%		
福祉サービスを 受けるため	8	19	4		
	4%	6%	2%		

(* p < 0.05 ** p < 0.01)

表30-3. 健康に関連する移動理由（複数回答）

	転入群	転出群	市内転居群		
65～74歳	（自分の身体状況のため）				
	病院に入院するため	3	7	5	
		2%	3%	3%	
	老人ホーム等に 入所するため	5	10	2	
		3%	4%	1%	
	身体が弱ったから	26	25	15	*
		17%	10%	8%	
	（配偶者の身体状況のため）				
	病院に入院するため	0	3	2	
		0%	1%	1%	
	老人ホーム等に 入所するため	0	1	0	
		0%	0%	0%	
	身体が弱ったから	7	14	10	
		5%	5%	6%	
	（生活環境のため）				
医療機関の利用が 便利だから	17	23	9		
	11%	9%	5%		
福祉サービスを 受けるため	4	5	4		
	3%	2%	2%		
75歳～	（自分の身体状況のため）				
	病院に入院するため	2	12	2	
		2%	6%	2%	
	老人ホーム等に 入所するため	7	57	4	**
		5%	27%	3%	
	身体が弱ったから	46	36	14	**
		35%	17%	12%	
	（配偶者の身体状況のため）				
	病院に入院するため	0	2	2	
		0%	1%	2%	
	老人ホーム等に 入所するため	0	0	1	
		0%	0%	1%	
	身体が弱ったから	10	12	5	
		8%	6%	4%	
	（生活環境のため）				
医療機関の利用が 便利だから	17	19	5		
	13%	9%	4%		
福祉サービスを 受けるため	5	15	3		
	4%	7%	3%		

(* p < 0.05 ** p < 0.01)

表31. 自分の健康が移動理由である者の状況

		転入群	転出群	市内転居群	
対象者全体	健康が理由ではない	203	332	264	**
		71%	70%	87%	
	健康が理由である	85	141	40	
		30%	30%	13%	
男性	健康が理由の人数	23	30	12	**
	健康が理由の割合	26%	18%	10%	
女性	健康が理由の人数	62	111	28	**
	健康が理由の割合	31%	37%	16%	
65～69歳	健康が理由の人数	8	20	9	
	健康が理由の割合	12%	13%	9%	
70～74歳	健康が理由の人数	23	20	11	
	健康が理由の割合	26%	18%	14%	
75～79歳	健康が理由の人数	16	22	5	**
	健康が理由の割合	31%	32%	9%	
80～84歳	健康が理由の人数	16	42	5	**
	健康が理由の割合	38%	55%	14%	
85歳～	健康が理由の人数	22	37	10	
	健康が理由の割合	55%	54%	39%	
65～74歳	健康が理由の人数	31	40	20	
	健康が理由の割合	20%	15%	11%	
75歳～	健康が理由の人数	54	101	20	**
	健康が理由の割合	41%	48%	17%	
老研式活動能力指標					
健康が理由 ではない	Mean	7.88	7.92	7.73	
	S. D.	2.63	2.90	2.77	
健康が理由 である	Mean	4.12	3.42	5.64	**
	S. D.	3.59	3.72	3.56	
介助の必要度					
健康が理由 ではない	Mean	1.71	1.72	1.73	
	S. D.	1.50	1.53	1.37	
健康が理由 である	Mean	3.71	4.30	2.77	**
	S. D.	2.37	2.51	2.27	
傷病の状況					
健康が理由 ではない	有病者数	140	213	204	**
	有病率	72%	65%	79%	
健康が理由 である	有病者数	74	127	38	
	有病率	88%	93%	95%	

(** p<0.01)

第3章 家族類型別にみた高齢者移動

居住移動を行った高齢者をその同居者（問11）に基づき、配偶者および子との有無に着目して、移動前後それぞれについて家族類型として4つのカテゴリー（A1群、A2群、B1群、B2群）を形成し、家族類型別にその実態の検討を試みる。

		配偶者との同居の有無	
		同居(A)	非同居(B)
子との同居の有無	同居(1)	A1	B1
	非同居(2)	A2	B2

1. 移動高齢者の属性別家族類型

転入者について性別・前期・後期による年齢区分（前期・後期）別（以下、前後期別）にその家族類型をみると、移動前の家族類型では男性の場合 A2 群が 57.0%、B2 群が 25.6% の順で、子と同居していない場合が中心（82.6%）となっている。一方、女性の場合では、B1 群 40.0%、B2 群 33.3% の順で多く、男性の場合に移動前の主な家族形態が子と同居していない場合であったのと比べ、女性の場合では、その形態は配偶者と同居していない場合（73.3%）であることが特徴的である。これを前後期別にみると、女性の場合に前期高齢者で A2 群が、後期高齢者で B1 群の割合が高くなっている。

移動後の変化をみると、男性、女性ともに子と同居する場合（A1 群、B1 群）の占める割合が増えているが、特に男性については A1 群が、女性では B1 群の割合が増えており、女性全体の 53.1% がこの類型に属し、後期高齢者では 74.7% とほぼ 3/4 を占めている。

転出者の場合では、男性の場合、A2 群が 50.6%、A1 群が 22.6% の順で多く、配偶者と同居している場合が中心（73.2%）となっていることがわかる。女性の場合には、転入者の場合と同様に B1 群（34.6%）、B2 群（29.0%）の順に高い割合を示し、配偶者と同居していない場合が多い（63.6%）ことが特徴である。前後期別にみると、前期高齢者の場合に配偶者と同居している割合が、また後期高齢者の場合に B1 群の割合が特徴的に高くなっている。

移動後の変化については、男性の場合に A1 群、女性の場合に B1 群の占める割合がそれぞれ増加している。

市内転居では、男性の場合 A2 群（43.6%）、A1 群（28.6%）の順で多く、転出者の場合と同様に、配偶者と同居している場合が中心（72.3%）となっている。これに対し、女性の場合には B1 群（34.4%）、B2 群（28.0%）の順となっており、配偶者と同居していない類型が主な場合（62.4%）である。また前後期別では、女性の場合に前期高齢者で B2 群の割合が、また後期高齢者で B1 群の占める割合が高くなっていることが特徴としてあげられる。

移動後の変化については、転出の場合と同様、男性については A1 群が、女性では B1 群の占

める割合が増加している傾向がみられる。

転入、転出および市内転居ともに、性別にみた場合に前期高齢者と後期高齢者間に有意な差が認められるのは、女性についてであった。（表1、表2）

2. 移動前後の家族類型の変化

移動前後の家族類型をみると、転入、転出、市内転居のいずれの場合においても、移動前後で同じ家族類型の割合が最も高く、転入 68.7%、転出 71.3%、市内転居 75.6%となっており、特に市内転居でその傾向が強い。また、特に多い移動前後で同じ家族類型は、転入では B1 群で、転出および市内転居では A2 群で、これらが全体に占める割合が 1/4 以上となっている。（表3）

3. 家族類型別就業状態

就業状態を家族類型別にみると、移動前の家族類型では、A1、B2 群で就業の割合が高くそれぞれ約 20%で、一方、A2、B1 群では、それぞれ 9.3%、1.2%とその割合は低く、家族類型間に有意な差がみられた。転出の場合には、A1 で就業の割合が高く（21.4%）、B1 でその割合が 6.9%と低くなっており、家族類型間での特徴がみられる。また、市内転居については、全体傾向として他の移動類型群と比較すると就業の割合が高いが、特に家族類型別にみると A1 が 32.4%と高い割合を示しており、家族類型別に有意な差がみられる。（表4）

移動後の家族類型別に就業状態をみると、転入の場合、A1 群、B2 群で就業している割合が高く、B1 群ではその割合が低くなっている傾向がみられる。

転出では、A2 群で就業している割合が、また B1 群で就業していない割合が全体傾向と比較してそれぞれ高くなっており特徴がみられるが、市内転居の場合には、特に家族類型による特徴的な傾向は認められない。（表5）

就業している場合の勤務形態をみると、いずれの移動類型の場合にも「自営業」が最も多く、「常勤」がこれに次いでいるが、家族類型による特徴はみられない。（表6）

4. 家族類型別主な生活費

主な生活費について移動前の家族類型別にみると、転入群では、子と同居している場合（A1、B1 群）において「自分の年金」の割合が低く、A1 群では「配偶者の年金」の割合が高くなる。また、B1 群においては「同居子からの援助」が 36.6%を占め、高い割合を示し、家族類型間で有意な差がみられる。（表7）

移動後の家族類型別に主な生活費をみると、転入については、子と同居している場合（A1 群、B1 群）に「自分の年金」の占める割合が全体平均と比較して低くなっており、その割合は特に B2 群で高くなっている。また、配偶者と同居している場合（A1 群、A2 群）に「配偶者の年金」の割合が高くなっている傾向がみられ、さらに A1 群では「自分の仕事による収入」の割合が高い。

また、市内転居の場合に A2 群で、主な生活費は「自分の年金」（56.0%）に「自分の仕事による収入」（20.2%）が次いでおり、「自分の仕事による収入」の占める割合が高くなっているのが特徴的であるといえる。

さらに、いずれの家族類型についても、B2 群で「同居子からの援助」の占める割合が全体傾向と比較して高くなっている。（表 8）

5. 家族類型別世帯主

移動後の家族類型別に世帯主をみると、移動前については、転入の場合、A1、A2 群で「配偶者」が 30.0%を超え、高い割合を示している。また、B1 群では、「本人」の割合が低くなっている一方で、「子」の割合が 39.1%と高く、家族類型間で有意差がみられる。

転出については、転入の場合と同様の傾向がみられ、家族類型間で有意な差が認められる。

市内転居では、子と同居している場合（A1、B1 群）に「本人」の割合が低く、一方で「配偶者」の割合が高くなっている。さらに、B1 群において「子」の割合が高くなっており、やはり家族類型間の有意差がみられた。（表 9）

移動後では、転入の場合、A1 群の 51.0%、B1 群の 76.1%が「子」が世帯主となっており、子と同居の場合には子が世帯主となっている割合が最も高く、その中心となっていることがわかる。（表 10）

前後期別にみると、配偶者と同居の場合（A1 群、A2 群）では、前期高齢者に比べ後期高齢者の場合で「本人」の占める割合が高くなっている。子と同居している場合（A1 群、B1 群）をみると「子」が世帯主である場合が占める割合は、A1 群では前期高齢者で、B1 群では後期高齢者でそれぞれより高くなっているのが特徴としてあげられる。

これを移動前の世帯主との比較からその変化をみると、A1 群では、世帯主が「本人」の割合が移動前の 59.2%から移動後 32.7%に、「配偶者」の割合が 30.6%から 16.3%にそれぞれ減少し、「子」の割合が 10.2%から 51.0%と大きく増加している。また B1 群で世帯主が「本人」の割合が移動前の 48.7%から 17.7%に、「子」の割合が 39.1%から 76.1%へと変化している。

転出の場合についてみると、A1 群の場合、世帯主は「本人」が最も多く（36.9%）、これに「子」（35.7%）が次いでおり、子と同居していても配偶者が同居の場合世帯主は「本人」であるものが中心となっている。

移動前からの変化をみると、A1 群では、世帯主が「本人」の割合が 52.9%から 36.9%に、「配偶者」の割合が 37.9%から 27.4%にそれぞれ減少し、「子」の割合が 9.2%から 35.7%へと増加している。また B1 群で世帯主が「本人」の割合が 45.5%から 20.3%に、「子」の割合が 41.5%から 74.0%に増加している。

市内転居の場合、転入の場合と同様に子と同居している場合（A1 群、B1 群）で世帯主が「本人」の占める割合が低くなっている傾向がみられる。

移動前からの変化については、A1 群、B1 群における変化について、転入および転出の場合と同様の傾向がみられるが、いずれも前二者と比較するとその変化の割合は小さくなっている。

6. 家族類型別居住形態

移動後の家族類型別に居住形態をみると、転入では配偶者と同居している場合（A1 群、A2 群）で「持ち家」が占める割合が高く、B2 群で「民間借家」の割合が高くなっている（30.8%）が、特に家族類型による有意な差はみられない。移動後との比較から居住形態の変化をみると、A1

群では「持ち家」の割合が移動前の 61.2%から 78.3%に増加し、「民間借家」の割合は 26.5%から 8.7%に減少している。B1 群についても同様の傾向がみられ、A1 群と比較すると変化の幅は小さいものの、「持ち家」の割合が増加し、「民間借家」の割合が減少している。A2 群では「持ち家」の割合が 73.3%から 60.7%に減少し、一方で「民間借家」が 13.3%から 35.7%に増加しており、B2 群についても「持ち家」の割合が 44.2%から 34.0%に減少している。特に B2 群では、後期高齢者を中心として「老人ホーム等」が移動前の 1.5%から移動後には 14.0%に増加していることが特徴としてあげられる。

転出については、子と同居している場合（A1 群、B1 群）で移動後に「持ち家」の割合が増加し、「民間借家」の割合が減少している。「配偶者アリ+子ナシ」群では、「持ち家」の割合が 64.3%から 55.6%に、「民間借家」が 18.3%から 14.5%に減少し、「公営・公団・公社の借家」が 4.8%から 15.4%に増加している。さらに B2 群では、「持ち家」の割合が 51.1%から 20.4%に、「民間借家」が 27.2%から 17.3%にそれぞれ減少し、「老人ホーム等」が移動前の 1.4%から移動後には 45.9%と、大幅に増加を示している。

市内転居については、A1 群で「持ち家」の割合が移動前の 60.5%から移動後では 72.7%に増加し、「民間借家」の割合は 38.3%から 18.2%に減少している。B1 群についても変化の幅は小さいものの「持ち家」が増加し、「民間借家」が減少しており、A1 群の場合と同様の傾向がみられる。A2 群については、「公営・公団・公社の借家」の割合が移動前の 1.3%から移動後には 19.5%に増加し、「民間借家」が 39.5%から 24.7%に減少している。B2 群では「持ち家」の割合が 20.0%から 9.1%に減少、移動前には回答のなかった「老人ホーム」が移動後に 10.9%となっている。（表 11、表 12）

7. 家族類型別健康状態（日常生活状態）

移動前と移動後のそれぞれの家族類型別に健康状態（日常生活状態）をみると、転入については、移動前の場合 B1 群で「健康で自立している」の割合が他の場合と比較すると低くなっているものの、家族類型別に有意な差は特にみられない。移動後の家族類型別では、A1 群で「健康で自立している」の割合が他の家族類型と比較して低く、一方で「一人で外出することができる」の割合が高い。さらに B1 群で「外出に介助が必要」の割合が高くなっており、有意差がみられた。前後期別にみると、B1 群では「健康で自立している」割合が前期高齢者では 67.6%、後期高齢者の場合には 28.2%、「一人で外出することができる」については前期高齢者 14.7%、後期高齢者 34.6%、「外出は介助が必要」では前期高齢者 17.6%、後期高齢者 23.1%となっており、年齢による有意な差がみられる。

転出については、移動前および移動後いずれの場合の家族類型別でも、配偶者と同居している場合（A1 群、A2 群）に配偶者と同居していない場合（B1 群、B2 群）と比較して「健康で自立している」割合が高く、さらに B1 群で「外出に介助が必要」の割合が高くなっているが、この傾向は特に移動後の家族類型の場合に顕著に示されている。前後期別にみると、A2 群について、「健康で自立している」割合が、前期高齢者では 83.2%、後期高齢者で 51.9%、「外出には介助が必要」の割合が前期高齢者で 3.0%、後期高齢者で 14.8%となっており、前後期間に有意な差が認められた。

市内転居においては、子と同居していない場合（A2群、B2群）で「健康で自立している」割合が高くなっている。B1群では「健康で自立している」割合が低く、「外出に介助が必要」の割合が高くなっており、この傾向は特に移動後の場合に顕著である。前後期別では、A1群とB2群で、「健康で自立している」割合が前期高齢者の場合に後期高齢者の場合を上回り、後期高齢者では「一人で外出することができる」割合が前期高齢者の場合と比較して多くなっており、有意な差がみられる。またB1群については、「健康で自立している」で前期高齢者（61.1%）が後期高齢者（29.4%）を上回っている他、「外出は介助が必要」の割合では、前期高齢者（5.6%）より後期高齢者（35.3%）で高くなっており、年齢による有意な差がみられる。（表13、表14）

8. 家族類型別病気の有無

家族類型別に病気の有無をみると、移動前の家族類型別では、転出において、A1群で他の類型と比較して、病気の「有る」割合が低く（59.2%）、「無い」割合が高い（40.8%）傾向はみられるものの、転入、転出および市内転居いずれについても、家族類型による有意差はみられない。（表15）

移動後の家族類型別にみると、転入ではA1群で病気の「有る」割合が高く（87.2%）、「無い」場合の割合が低く（12.8%）になっているが、家族類型による特徴は特にみられない。

転出においては、A1群で他の類型と比較して病気の「有る」割合が低く（61.6%）、「無い」割合が高くなって（38.4%）おり、家族類型別に有意な差が認められた。

市内転居については、転入の場合と同様にA1群で病気の「有る」割合が高く（84.1%）、「無い」割合が低くなっている（15.9%）が、家族類型による特徴は特にみられない。（表16）

9. 家族類型別医療機関利用

医療機関の利用状況を、移動後の家族類型別にみると、移動前については、転入、転出および市内転居のいずれの場合においても、家族類型による差はみられない。移動後についてみると、転出において、B1群で「入院をしている」（10.7%）が、B2群で「往診を受けている」（23.3%）が全体傾向と比較して高い割合を示し、有意な差がみられる。移動前後の変化をみると、転出群のB2群で、移動後に「往診を受けている」が2.5%から23.3%に増加し、「入院をしている」が15.2%から3.3%に減少している。また、市内転居におけるB1群、B2群で「入院をしている」が減少しており、B1群で16.0%から4.9%に、B2群で15.9%から5.9%となっており、特徴的な傾向を示している。（表17、表18）

10. 家族類型別被介護状況

被介護状況を、移動前後の家族類型別にみると、移動前の介護状況については、子と同居していない場合（A2群、B2群）に「介護を受けていなかった」割合がともに96.3%、97.9%と高く、一方B1群で「介護を受けていた」割合が高くなっており、有意な差がみられた。転出群については、A2群で「介護を受けていなかった」割合が高く（90.4%）、B1群で「介護を受けていた」割合が高い傾向がみられる。さらに、市内転居群では、転入の場合と同様の傾向がみられ、子と同居していない場合（A2群、B2群）で「介護を受けていなかった」割合が93.9%、93.8%と高

く、B1群で「介護を受けていた」割合が高くなっており、家族類型による特徴が示されている。
(表 19)

移動後の被介護状況をみると、転入群については、A2群で「介護を受けていない」が92.5%と高い割合を示し、B1群では「介護を受けている」割合が高くなっている。また、移動前の被介護状況との変化をみると、配偶者と同居していない場合（B1群、B2群）でともに移動後に介護を受けるようになった割合が高くなっている。

転出群では、子と同居している場合（A1群、B1群）で「介護を受けている」割合が高く、家族類型間で有意な差がみられる。移動前後の変化をみると、A1群、B1群ともに移動後に介護を受けている割合が増加している傾向がみられるが、特に、B1群でその傾向が強くみられる。

市内転居では、B1群で「介護を受けている」割合が30.7%と他の場合と比較して高くなっている。また、移動前後の変化をみると、配偶者と同居していない場合（B1群、B2群）で移動後に介護を受けるようになった傾向が強い。（表 20）

1.1. 家族類型別移動主体

移動前の家族類型別に誰の理由で移動したか、移動主体をみると、転入の場合には、A1群で「家族」の割合が高く（52.4%）、B1群では「自分自身の理由」の割合が他の家族類型の場合と比較して低くなっている（23.5%）一方で、「家族の理由」の割合が高く（69.1）、4つの家族類型の中でその占める割合が最も高くなっている。また、B2群では「自分自身の理由」の割合が高く（82.9%）、「家族の理由」が8.5%と低い割合を示しており、B1群と対照的な特徴を示している。

転出においては、子と同居している場合（A1群、B1群）で「自分自身の理由」のしめる割合が低い傾向がみられ、その一方で、B1群では「家族の理由」の割合が高くなっている（55.2%）。子と同居していない場合（A2群、B2群）においては、「家族の理由」の占める割合が低く、そのうち配偶者と同居している場合（A2群）では「配偶者の理由」の占める割合が他の家族類型と比較して高く（17.0%）、配偶者と同居していない場合（B2群）では「自分自身の理由」が80.0%と高い割合を示している。

市内転居については、A1群では「その他」が最も多く（41.8%）、これに次いで「家族の理由」が多くなっている（29.9%）。同様に子と同居している場合でも、配偶者と同居していない場合（B1群）には、「家族の理由」の割合が56.2%と高くなっている。（表 21）

1.2. 家族類型別移動理由

転居理由（問 22）を、「家族関係のため」「健康理由のため」「施設関係のため」および「住宅事情のため」の4つに分類し、家族類型別にその傾向をみる。

「家族関係のため」：〈家族関係のため〉

1. 家族の近くに住むため
2. 家族と同居するため
3. 家族と別居するため
4. 配偶者と死別したため

「健康理由のため」：〈自分の身体状況のため〉

9. 入院・入所するほどではないが、自分の身体が弱ったから

- 〈配偶者の身体状況のため〉 12. 入院・入所するほどではないが、配偶者の身体が弱ったから
- 〈生活環境のため〉 20. 医療機関の利用が便利だから
- 21. 福祉サービスを受けるため
- 「施設関係のため」： 〈自分の身体状況のため〉 7. 病院に入院するため
- 8. 老人ホーム・老人保健施設等に入所するため
- 〈配偶者の身体状況のため〉 10. 配偶者が病院に入院するため
- 11. 配偶者が老人ホーム・老人保健施設等に入所するため
- 「住宅事情のため」： 〈住宅事情のため〉 15. 住み良い家に住むため
- 16. 住んでいた借家などの建て替えのため
- 17. 地域開発や街づくりのため
- 18. 家の維持管理が困難になったため

移動前の家族類型別に移動理由をみると、転入については、家族類型別にみて特に特徴的な傾向を見いだすことはできない。転出では、子と同居する場合（A1、B1）で「家族関係のため」の割合が高く、一方でB2のその割合は低い。また、「施設関係のため」についてはA1群3.8%、B2群55.2%とかなりの開きがみられる。また「健康理由のため」は子と同居している場合（A1、B1群）の場合で回答の割合が高かった。（表22）

移動後の家族類型別にみると、転入では、A1群で「家族関係のため」の割合が高く（62.5%）、「健康理由のため」が低くなっている（16.7%）。またA2群で「住宅事情のため」の割合が、B1群で「健康理由のため」の割合がそれぞれ他の家族類型と比較して高い傾向がみられるが、有意な差は認められない。（表23）

これを前後期別にみると、A2群では前期高齢者の場合に「家族関係のため」の割合が68.2%であるのに対し、後期高齢者の場合には25.0%、一方「健康理由のため」は前期高齢者が4.5%であるのに対して、後期高齢者では66.7%、さらに「住宅事情のため」については前期高齢者が27.3%、後期高齢者では8.3%となっており、両者間における特徴が示されている。

転出では、子と同居している場合（A1群、B1群）で、「家族関係のため」の割合がいずれも5割を超え高い割合を占めている一方で、「健康理由のため」の割合も子と同居していない場合と比較して高くなっている。A2群では「住宅事情のため」の割合が高く（35.6%）、B2群では「施設関係のため」の割合が高くなっており（55.2%）、家族類型間で有意な差が認められた。

前後期別にみると、いずれの家族類型の場合についても、「施設関係のため」の割合が前期高齢者で低く、後期高齢者で高くなっており、また「住宅事情のため」については、前期高齢者でその割合が高く、後期高齢者では低くなっており、すべての家族類型において、有意差が認められる。

市内転居の場合には、全体的な傾向として「住宅事情のため」の割合が高いが、家族類型別では、特にA2群でその割合が高くなっている（74.4%）他、子と同居している場合（A1群、B1群）では「家族関係のため」の割合が、またB2群で「施設関係のため」の割合が高くなっており、家族類型間で有意差がみられる。前後期別の傾向については、市内転居の場合には、いずれの家族類型についても有意な差は認められなかった。（表24）

本調査においては、子との関係について、同居および非同居についてのみをたずねており、同居はしていないが、互いに近くに住み、日常の生活や交流を通じた支援（援助）の面で、同居の場合と同様の機能が果たされていることが見込まれる「近居」についての実態を把握することはできない。本調査における市内転居群において、子と同居していない群（A2、B2）には子と近居の場合が含まれていることが想定され、市内転居群が示す特徴を分析する上で、さらに、特に高齢期の家族機能の実態に配慮した上で高齢者の移動要因を分析する上で、今後近居の実態についての把握はひとつの重要な課題となるものと思われる。

表1 性・年齢別移動前家族類型

移動類型	性別	年齢区分(前後期)	年齢区分(前後期)	度数	家族類型(前)				合計
					A1	A2	B1	B2	
転入	男性	65～74歳	度数	6	29	1	15	51	
			年齢区分(前後期)の%	11.8%	56.9%	2.0%	29.4%	100.0%	
		75歳以上	度数	4	20	4	7	35	
			年齢区分(前後期)の%	11.4%	57.1%	11.4%	20.0%	100.0%	
		合計	度数	10	49	5	22	86	
			年齢区分(前後期)の%	11.6%	57.0%	5.8%	25.6%	100.0%	
	女性	65～74歳	度数	9	26	27	33	95	**
			年齢区分(前後期)の%	9.5%	27.4%	28.4%	34.7%	100.0%	
		75歳以上	度数	6	11	51	32	100	
			年齢区分(前後期)の%	6.0%	11.0%	51.0%	32.0%	100.0%	
		合計	度数	15	37	78	65	195	
			年齢区分(前後期)の%	7.7%	19.0%	40.0%	33.3%	100.0%	
転出	男性	65～74歳	度数	28	62	10	16	116	
			年齢区分(前後期)の%	24.1%	53.4%	8.6%	13.8%	100.0%	
		75歳以上	度数	10	23	11	8	52	
			年齢区分(前後期)の%	19.2%	44.2%	21.2%	15.4%	100.0%	
		合計	度数	38	85	21	24	168	
			年齢区分(前後期)の%	22.6%	50.6%	12.5%	14.3%	100.0%	
	女性	65～74歳	度数	21	47	25	37	130	***
			年齢区分(前後期)の%	16.2%	36.2%	19.2%	28.5%	100.0%	
		75歳以上	度数	13	22	73	45	153	
			年齢区分(前後期)の%	8.5%	14.4%	47.7%	29.4%	100.0%	
		合計	度数	34	69	98	82	283	
			年齢区分(前後期)の%	12.0%	24.4%	34.6%	29.0%	100.0%	
市内転居	男性	65～74歳	度数	23	36	5	16	80	
			年齢区分(前後期)の%	28.8%	45.0%	6.3%	20.0%	100.0%	
		75歳以上	度数	15	22	8	8	53	
			年齢区分(前後期)の%	28.3%	41.5%	15.1%	15.1%	100.0%	
		合計	度数	38	58	13	24	133	
			年齢区分(前後期)の%	28.6%	43.6%	9.8%	18.0%	100.0%	
	女性	65～74歳	度数	21	23	23	34	101	**
			年齢区分(前後期)の%	20.8%	22.8%	22.8%	33.7%	100.0%	
		75歳以上	度数	12	14	41	18	85	
			年齢区分(前後期)の%	14.1%	16.5%	48.2%	21.2%	100.0%	
		合計	度数	33	37	64	52	186	
			年齢区分(前後期)の%	17.7%	19.9%	34.4%	28.0%	100.0%	

*** P<0.001 ** 0.001≤P<0.01 * 0.01≤P<0.05

表2 性・年齢別移動後家族類型

移動類型	性別	年齢区分(前後期)	年齢区分	度数	家族類型(後)				合計	
					A1	A2	B1	B2		
転入	男性	年齢区分(前後期)	65～74歳	度数	15	23	6	9	53	***
			年齢区分(前後期)の%	28.3%	43.4%	11.3%	17.0%	100.0%		
		75歳以上	度数	13	14	7	3	37		
			年齢区分(前後期)の%	35.1%	37.8%	18.9%	8.1%	100.0%		
		合計	度数	28	37	13	12	90		
			年齢区分(前後期)の%	31.1%	41.1%	14.4%	13.3%	100.0%		
	女性	年齢区分(前後期)	65～74歳	度数	15	21	29	30	95	
			年齢区分(前後期)の%	15.8%	22.1%	30.5%	31.6%	100.0%		
		75歳以上	度数	7	4	74	14	99		
			年齢区分(前後期)の%	7.1%	4.0%	74.7%	14.1%	100.0%		
		合計	度数	22	25	103	44	194		
			年齢区分(前後期)の%	11.3%	12.9%	53.1%	22.7%	100.0%		
転出	男性	年齢区分(前後期)	65～74歳	度数	35	63	8	9	115	***
			年齢区分(前後期)の%	30.4%	54.8%	7.0%	7.8%	100.0%		
		75歳以上	度数	17	21	5	11	54		
			年齢区分(前後期)の%	31.5%	38.9%	9.3%	20.4%	100.0%		
		合計	度数	52	84	13	20	169		
			年齢区分(前後期)の%	30.8%	49.7%	7.7%	11.8%	100.0%		
	女性	年齢区分(前後期)	65～74歳	度数	21	40	31	39	131	
			年齢区分(前後期)の%	16.0%	30.5%	23.7%	29.8%	100.0%		
		75歳以上	度数	14	8	80	46	148		
			年齢区分(前後期)の%	9.5%	5.4%	54.1%	31.1%	100.0%		
		合計	度数	35	48	111	85	279		
			年齢区分(前後期)の%	12.5%	17.2%	39.8%	30.5%	100.0%		
市内転居	男性	年齢区分(前後期)	65～74歳	度数	27	36	5	14	82	**
			年齢区分(前後期)の%	32.9%	43.9%	6.1%	17.1%	100.0%		
		75歳以上	度数	20	19	7	6	52		
			年齢区分(前後期)の%	38.5%	36.5%	13.5%	11.5%	100.0%		
		合計	度数	47	55	12	20	134		
			年齢区分(前後期)の%	35.1%	41.0%	9.0%	14.9%	100.0%		
	女性	年齢区分(前後期)	65～74歳	度数	21	23	31	25	100	
			年齢区分(前後期)の%	21.0%	23.0%	31.0%	25.0%	100.0%		
		75歳以上	度数	14	7	45	17	83		
			年齢区分(前後期)の%	16.9%	8.4%	54.2%	20.5%	100.0%		
		合計	度数	35	30	76	42	183		
			年齢区分(前後期)の%	19.1%	16.4%	41.5%	23.0%	100.0%		

*** P<0.001 ** 0.001≤P<0.01 * 0.01≤P<0.05

表3 移動前家族類型別移動後家族類型

移動類型				家族類型(後)				合計	
				A1	A2	B1	B2		
転入	家族類型(前)	A1	度数	21	3	1		25	***
			家族類型(前)の%	84.0%	12.0%	4.0%		100.0%	
		A2	度数	19	53	7	4	83	
			家族類型(前)の%	22.9%	63.9%	8.4%	4.8%	100.0%	
		B1	度数	4	1	68	6	79	
			家族類型(前)の%	5.1%	1.3%	86.1%	7.6%	100.0%	
		B2	度数	3	5	31	41	80	
		家族類型(前)の%	3.8%	6.3%	38.8%	51.3%	100.0%		
	合計	度数	47	62	107	51	267		
		家族類型(前)の%	17.6%	23.2%	40.1%	19.1%	100.0%		
転出	家族類型(前)	A1	度数	52	9	9	2	72	***
			家族類型(前)の%	72.2%	12.5%	12.5%	2.8%	100.0%	
		A2	度数	27	114	7	4	152	
			家族類型(前)の%	17.8%	75.0%	4.6%	2.6%	100.0%	
		B1	度数	4	4	79	22	109	
			家族類型(前)の%	3.7%	3.7%	72.5%	20.2%	100.0%	
		B2	度数	4	4	27	61	96	
		家族類型(前)の%	4.2%	4.2%	28.1%	63.5%	100.0%		
	合計	度数	87	131	122	89	429		
		家族類型(前)の%	20.3%	30.5%	28.4%	20.7%	100.0%		
市内転居	家族類型(前)	A1	度数	56	8	5	1	70	***
			家族類型(前)の%	80.0%	11.4%	7.1%	1.4%	100.0%	
		A2	度数	19	68	5	3	95	
			家族類型(前)の%	20.0%	71.6%	5.3%	3.2%	100.0%	
		B1	度数	6	4	61	5	76	
			家族類型(前)の%	7.9%	5.3%	80.3%	6.6%	100.0%	
		B2	度数	1	3	16	50	70	
		家族類型(前)の%	1.4%	4.3%	22.9%	71.4%	100.0%		
	合計	度数	82	83	87	59	311		
		家族類型(前)の%	26.4%	26.7%	28.0%	19.0%	100.0%		

*** P<0.001 ** 0.001≤P<0.01 * 0.01≤P<0.05

表4 移動前家族類型別就業状態

移動類型			就業状態		合計		
			就業	非就業			
転入	家族類型(前)	A1	度数	5	20	25	**
			家族類型(前)の%	20.0%	80.0%	100.0%	
	A2	度数	8	78	86		
		家族類型(前)の%	9.3%	90.7%	100.0%		
	B1	度数	1	81	82		
		家族類型(前)の%	1.2%	98.8%	100.0%		
	B2	度数	17	69	86		
		家族類型(前)の%	19.8%	80.2%	100.0%		
合計		度数	31	248	279		
		家族類型(前)の%	11.1%	88.9%	100.0%		
転出	家族類型(前)	A1	度数	15	55	70	*
			家族類型(前)の%	21.4%	78.6%	100.0%	
	A2	度数	25	126	151		
		家族類型(前)の%	16.6%	83.4%	100.0%		
	B1	度数	8	108	116		
		家族類型(前)の%	6.9%	93.1%	100.0%		
	B2	度数	20	84	104		
		家族類型(前)の%	19.2%	80.8%	100.0%		
合計		度数	68	373	441		
		家族類型(前)の%	15.4%	84.6%	100.0%		
市内転居	家族類型(前)	A1	度数	23	48	71	*
			家族類型(前)の%	32.4%	67.6%	100.0%	
	A2	度数	20	73	93		
		家族類型(前)の%	21.5%	78.5%	100.0%		
	B1	度数	9	64	73		
		家族類型(前)の%	12.3%	87.7%	100.0%		
	B2	度数	11	61	72		
		家族類型(前)の%	15.3%	84.7%	100.0%		
合計		度数	63	246	309		
		家族類型(前)の%	20.4%	79.6%	100.0%		

*** P<0.001 ** 0.001≤P<0.01 * 0.01≤P<0.05

表5 移動後家族類型別就業状態

移動類型				就業状態		合計	
				就業	非就業		
転入	家族類型(後)	A1	度数	9	40	49	***
			家族類型(後)の%	18.4%	81.6%	100.0%	
	A2	度数	8	54	62		
		家族類型(後)の%	12.9%	87.1%	100.0%		
	B1	度数	3	111	114		
		家族類型(後)の%	2.6%	97.4%	100.0%		
	B2	度数	11	45	56		
家族類型(後)の%		19.6%	80.4%	100.0%			
合計	度数	31	250	281			
	家族類型(後)の%	11.0%	89.0%	100.0%			
転出	家族類型(後)	A1	度数	16	68	84	**
			家族類型(後)の%	19.0%	81.0%	100.0%	
	A2	度数	28	102	130		
		家族類型(後)の%	21.5%	78.5%	100.0%		
	B1	度数	7	114	121		
		家族類型(後)の%	5.8%	94.2%	100.0%		
	B2	度数	16	86	102		
家族類型(後)の%		15.7%	84.3%	100.0%			
合計	度数	67	370	437			
	家族類型(後)の%	15.3%	84.7%	100.0%			
市内転居	家族類型(後)	A1	度数	19	61	80	**
			家族類型(後)の%	23.8%	76.3%	100.0%	
	A2	度数	26	58	84		
		家族類型(後)の%	31.0%	69.0%	100.0%		
	B1	度数	8	79	87		
		家族類型(後)の%	9.2%	90.8%	100.0%		
	B2	度数	11	47	58		
家族類型(後)の%		19.0%	81.0%	100.0%			
合計	度数	64	245	309			
	家族類型(後)の%	20.7%	79.3%	100.0%			

*** P<0.001 ** 0.001<P<0.01 * 0.01<P<0.05

表6 移動後家族類型別勤務形態

移動類型				勤務形態					合計
				自営業	常勤	臨時、日雇 い	パートタイム	内職	
転入	家族 類型 (後)	A1	度数 家族類型(後)の%	4 44.4%	3 33.3%	1 11.1%	1 11.1%		9 100.0%
		A2	度数 家族類型(後)の%	2 25.0%	2 25.0%		4 50.0%		8 100.0%
	B1	度数 家族類型(後)の%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%			3 100.0%	
	B2	度数 家族類型(後)の%	2 20.0%	3 30.0%	2 20.0%	2 20.0%	1 10.0%	10 100.0%	
	合計	度数 家族類型(後)の%	9 30.0%	9 30.0%	4 13.3%	7 23.3%	1 3.3%	30 100.0%	
	合計	度数 家族類型(後)の%	9 30.0%	9 30.0%	4 13.3%	7 23.3%	1 3.3%	30 100.0%	
転出	家族 類型 (後)	A1	度数 家族類型(後)の%	7 43.8%	6 37.5%	3 18.8%			16 100.0%
		A2	度数 家族類型(後)の%	11 39.3%	11 39.3%	2 7.1%	3 10.7%	1 3.6%	28 100.0%
	B1	度数 家族類型(後)の%	4 57.1%	2 28.6%		1 14.3%		7 100.0%	
	B2	度数 家族類型(後)の%	8 50.0%	2 12.5%	1 6.3%	4 25.0%	1 6.3%	16 100.0%	
	合計	度数 家族類型(後)の%	30 44.8%	21 31.3%	6 9.0%	8 11.9%	2 3.0%	67 100.0%	
	合計	度数 家族類型(後)の%	30 44.8%	21 31.3%	6 9.0%	8 11.9%	2 3.0%	67 100.0%	
市内転居	家族 類型 (後)	A1	度数 家族類型(後)の%	7 41.2%	7 41.2%		3 17.6%		17 100.0%
		A2	度数 家族類型(後)の%	11 44.0%	7 28.0%	5 20.0%	2 8.0%		25 100.0%
	B1	度数 家族類型(後)の%	2 25.0%	3 37.5%	1 12.5%	2 25.0%		8 100.0%	
	B2	度数 家族類型(後)の%	3 27.3%	2 18.2%	2 18.2%	3 27.3%	1 9.1%	11 100.0%	
	合計	度数 家族類型(後)の%	23 37.7%	19 31.1%	8 13.1%	10 16.4%	1 1.6%	61 100.0%	
	合計	度数 家族類型(後)の%	23 37.7%	19 31.1%	8 13.1%	10 16.4%	1 1.6%	61 100.0%	

*** P<0.001 ** 0.001≤P<0.01 * 0.01≤P<0.05

表7 移動前家族類型別主な生活費

移動類型	主な生活費										合計		
	自分の年金	配偶者の年金	自分の仕事による収入	配偶者の仕事による収入	同居子からの援助	別居子からの仕送り	貯蓄・地代・利子等	その他					
転入	家族類型(前)	A1	度数	12	7	3	1	2				25	***
			家族類型(前)の%	48.0%	28.0%	12.0%	4.0%	8.0%				100.0%	
		A2	度数	53	17	5	3	3	1	1	1	84	***
			家族類型(前)の%	63.1%	20.2%	6.0%	3.6%	3.6%	1.2%	1.2%	1.2%	100.0%	
		B1	度数	39	5		1	30	3	1	3	82	***
			家族類型(前)の%	47.6%	6.1%		1.2%	36.6%	3.7%	1.2%	3.7%	100.0%	
		B2	度数	64	5	7		8	1	2		87	***
			家族類型(前)の%	73.6%	5.7%	8.0%		9.2%	1.1%	2.3%		100.0%	
合計		度数	168	34	15	5	43	5	4	4	278	***	
		家族類型(前)の%	60.4%	12.2%	5.4%	1.8%	15.5%	1.8%	1.4%	1.4%	100.0%		
転出	家族類型(前)	A1	度数	40	14	9	2	5		1	1	72	**
			家族類型(前)の%	55.6%	19.4%	12.5%	2.8%	6.9%		1.4%	1.4%	100.0%	
		A2	度数	92	33	13	5	5	1	2	3	154	**
			家族類型(前)の%	59.7%	21.4%	8.4%	3.2%	3.2%	.6%	1.3%	1.9%	100.0%	
		B1	度数	68	16	5		17	4	7		117	**
			家族類型(前)の%	58.1%	13.7%	4.3%		14.5%	3.4%	6.0%		100.0%	
		B2	度数	72	14	11		5		1	3	106	**
			家族類型(前)の%	67.9%	13.2%	10.4%		4.7%		.9%	2.8%	100.0%	
合計		度数	272	77	38	7	32	5	11	7	449	**	
		家族類型(前)の%	60.6%	17.1%	8.5%	1.6%	7.1%	1.1%	2.4%	1.6%	100.0%		
市内転居	家族類型(前)	A1	度数	36	8	11	3	7		4	2	71	***
			家族類型(前)の%	50.7%	11.3%	15.5%	4.2%	9.9%		5.6%	2.8%	100.0%	
		A2	度数	56	12	13	6	1		3	3	94	***
			家族類型(前)の%	59.6%	12.8%	13.8%	6.4%	1.1%		3.2%	3.2%	100.0%	
		B1	度数	44	4	2		20		1	4	75	***
			家族類型(前)の%	58.7%	5.3%	2.7%		26.7%		1.3%	5.3%	100.0%	
		B2	度数	51	5	3		3	3	1	10	76	***
			家族類型(前)の%	67.1%	6.6%	3.9%		3.9%	3.9%	1.3%	13.2%	100.0%	
合計		度数	187	29	29	9	31	3	9	19	316	***	
		家族類型(前)の%	59.2%	9.2%	9.2%	2.8%	9.8%	.9%	2.8%	6.0%	100.0%		

*** P<0.001 ** 0.001≤P<0.01 * 0.01≤P<0.05